

事後評価報告書（国際緊急共同研究・調査支援プログラム（J-RAPID））

1. 研究・調査課題名：「複雑化する世界における Natech（自然災害と技術の相互作用）リスクの低減に関する学際的研究：日本の経験から学び、iNTeg-Risk プロジェクト・NaTech 分野の手法を応用」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究グループ長
岸本 充生

2-2. フランス側研究代表者：国立産業・環境リスク研究所（INERIS）リサーチエンジニア
Adrien Willot

3. 総合評価：研究・調査の目標及び実施環境にてらして、相応な成果が得られている

4. 事後評価結果

(1) 研究・調査成果の評価について

地震リスクの大きなわが国で、Natech リスクの観点から減災対策を検討することは重要で、今回の調査結果は今後の研究発展のための貴重な基礎資料となった。日仏合同で現地ヒアリング、レポート作成作業が精力的になされており、両者の連携はほぼ当初予定通りに進行した。

一方、欧州で先行しているNatech研究の重要性を認識したというレベルで研究が留まっているような印象を受ける。独自のアイデアに基づく今後の研究の発展、積極的な提案が期待される。

(2) その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

論文等で研究成果を積極的に公表している。

一方、現地調査後の具体的分析や成果まとめのプロセスにおける連携の成果が必ずしも明確でないように思われる。

(3) 総合評価コメント

地震リスクの大きなわが国で、Natech リスクの観点から減災対策を検討することは重要で、今回の調査結果は今後の研究発展のための貴重な基礎資料となった。今後は独自のアイデアに基づく研究の発展、積極的な提案が期待される。